

ふくいのかたがた

福井県生活協同組合連合会

〒910-0842 福井市開発5丁目1603番地(県民生協本部センター内)

TEL0776-52-8815 FAX0776-52-2050 Eメールアドレス kenren@fukuicoop.or.jp

2014年11月12日 No.105

<http://www.fukui.coop/kenren/>

福井県生協連合会

検索

第18回 海岸クリーンアップ ボランティア活動報告

Let's clean the coast!

福井県生協連合会では、「ナホトカ号重油流出事故」が起きた1997年から毎年、海岸クリーンアップ活動を実施しています。第10回を契機に一般県民や県内企業にもご案内させていただいたところ、多くの方にご参加いただけるようになりました。

第18回を迎えた今年は2会場(9/6鷹巣海岸、9/13三国サンセットビーチ)で総勢331の方が海岸清掃の活動にご参加くださり、木切れや発泡スチロール、ロープやプラスチックの破片、使用済の花火、空き缶やペットボトル、わらひもや流木など約130袋分のごみを回収しました。三国サンセットビーチでは、植え込みや休憩所にもたばこの吸い殻やペットボトル、空き缶が捨てられており、海岸だけでなく植え込みまでゴミの回収に汗を流しました。

地元の学生さんや地域の方々、企業などがこまめに清掃活動をされているので、年々ゴミ袋の数は減ってきています。今年度の海岸清掃は1時間早く始まりましたが、お天気も良くてたくさんの方に気持ちよく参加していただくことが出来ました。ご参加いただいた皆様、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

鷹巣会場

三国会場



福井市野球連盟の学童野球チームの児童達



熱心にごみを拾い集める参加者



「生協ボランティア月間」が始まります。

2014年11月15日～2015年2月15日

福井県内生協ボランティア活動の一環として今年も「生協ボランティア月間」に取り組みます。古切手、書き損じ葉書、外国コイン、ベルマークを集めますので、ご協力ください。集まった収集物は福井県ボランティアセンターなどを通じて、収集ボランティア団体からコレクターなどに売られて換金されます。売上金が福祉活動に活用されます。



福井県県民安全課との懇談会開催

月日 8月8日(金) 会場 福井県民生協 宝永きらめき 2階会議室

福井県生協連では、生協担当課である福井県安全環境部県民安全課との懇談会を毎年1回開催しています。県民安全課からは白崎雅義課長と海道ひかり総括主任、仲村雅主事を迎え、消費生活事業の概要と生協指導検査に関わる事項について説明をしていただきました。

会員生協からは各生協の事業・活動を説明し、生協への理解を深めていただきました。

<近年の検査において指摘などが多かった事項>

- ・危機管理体制マニュアルの不整備、また、定期的な点検・訓練などの未実施。
- ・職員及び組織の管理体制マニュアルの整備が不十分。
- ・二項組合員の加入手続きが定款の規定に従っていない。
(二項組合委員:地域組合では、区域内の住所はないが区域内に勤務地を有する者、職域組合では、職員OBや職員以外の者)
- ・決算関係書類、事業報告書に係る監査報告について、法定事項が未記載。
- ・決算関係書類、事業報告書およびその付属明細書について、法令で定める事項や必要な注記が未記載。





▲空間線量を測る装置。(南相馬市)

福井県生協連合会

7月28日(月)~29日(火) 参加者/会員生協より8名

▲放射能に汚染された土などが入った黒い袋がいたるところに。(川俣町)

「福島スタディツアー」報告

福島で見聞きしたことを、会員生協での「被災地を忘れない、伝える」取り組みに役立てていただくことを目的に、福井県生協連の役員研修の一環として「福島スタディツアー」を実施しました。

コープふくしまの今野理事長をはじめ、コープふくしま4名の方に同行していただきながら、被災地各地(新地町-松川浦漁港-相馬市内-南相馬市内-飯館村など)を案内していただきました。防波堤が破壊された村上海岸や壊滅的被害を受けた松川浦漁港、原発事故後避難指示が出た浪江町、仮設住宅がある新地町など、その場で受けた説明はとても重いものでした。

原発事故が起こったことで復興が岩手県や宮城県にくらべて遅れており、「普通の生活に戻りたいと願ってもその実現は困難なので、被災された方々

の心に寄り添っていく活動を続けています。」との今野理事長の言葉に、震災と原発事故が福島にもたらした問題の大きさに言葉が出ませんでした。

コープふくしまでは、継続的な放射能学習会を実施したり、実際の食事に含まれる放射性物質の測定とホールボディカウンタ(現在の内部被ばくの量がわかる調査)の組み合わせで、放射能汚染への理解向上の取り組みをすすめています。「科学的に物事を見て数値を納得し、自分の物差しを持って、福島で生きていく材料にしてほしい。」とコープふくしまの渡邊理事は話されていました。



福井県民生協

10月10日(金)~12日(日) 参加者/福井県民生協の役員10名

「宮城・岩手スタディツアー」報告

東北の復興状況を視察し組合員のみなさんや職員に現状をお伝えするとともに、今後の支援のあり方について考えることを目的に、「宮城・岩手スタディツアー」に、福井県民生協の役員10名が参加しました。

宮城では、仙南エリア沿岸部の山元町災害公営住宅、関上・荒浜地区を見学した後、みやぎ生協の「東日本大震災学習・資料室」を見学。大津波の状況から復興に向けての取組の様子が時系列で展示されており、当時の様子が目の前に広がるようでした。みやぎ生協の五十嵐さんの説明で、「人の気持ちの支援が力になった」「組合員活動の力が支えてくれた」という言葉が印象的でした。

岩手では、まずマリンコープDORAへ。ここには「復興商店」という被災12市町村の商品を扱う売り場があり、「かけあしの会」という団体が仮設住宅にいる方に作業を提供しようというプロジェクトです。手作り商品のはか被災企業の水産加工品など50~60品目が並べられていました。

田老町漁協では、真崎わかめの生産現場を見学。田老町漁協の小林組合長が、「産地の付加価値をつけた再生を目指していきたい」とお

しゃっていたのが印象的でした。

また、三陸沿岸部を車窓から見る景色は、まだまだ復興途上で、完全な復興には多くの人の力を感じることを感じました。陸前高田で、語り部である釘子さんのお話にあった「まだまだ普通の生活は程遠い。まだ東日本大震災は終わっていない。支援はまだ必要。震災のことをいろんな人に伝えて欲しい。」という言葉が、心の中にいつまでも残っています。

東日本大震災から3年。復興は進んでいるものの、被災地の現場では、まだ様々な問題が残されています。目にしてきたことをしっかり伝えること、そして東日本大震災という未曾有の災害を忘れず、今回出会った方々とのつながりを大事にして、復興支援を続けていくことが私たちに今できることではないでしょうか。

3.11 を忘れない

～被災地のいま～

カビで救急車搬送、劣化が進む仮設住宅

プレハブ仮設住宅の環境は歳月を追うごとに劣化の一途をたどり、入居者を心身ともに追い詰めています。

石巻市では、大量に発生したカビで呼吸困難に陥り救急車で運ばれた住民がいました。建物の傾き、土台の腐食、床のきしみを訴える声もあちらこちらから上がります。

「NPO法人石巻復興支援ネットワーク(やっべす)」で清掃ボランティアに取り組む渡部慶太さん(同法人理事)は「登をはがすと水滴が大量に溜まっている。網戸が外せないで埃がたまり、ドアが閉めづらいので換気が難しい」と言います。

同法人代表の兼子佳恵さんは、プレハブ仮設住宅の居住性に格差があることを指摘します。「早期建設が優先されたとはいえ、どのメーカーもこれまでの災害から入居期間の延長を想定できたはず。基準通りの施行であっても、ある団地はトラブル続きで、別の団地は3年経っても問題が少なく聞いています」。



▲真っ黒なカビがはびこるキッチン天井部。提供:NPO法人石巻復興支援ネットワーク(やっべす)



▲石巻復興支援ネットワークの兼子佳恵さんと渡部慶太さん。



▲石巻の市街地では復興公営住宅の建設が進むが計画戸数3,250戸(半島部を除く)のうち入居できているのは149戸にすぎない。
※石巻市「東日本大震災からの復興」2014年8月末現在

平成26年度 11月1日(土) 福井県総合防災訓練に参加

訓練想定 台風接近に伴い福井県内全域に大雨特別警報が発表された直後、勝山市を直下とする地震発生。勝山市を中心に家屋の倒壊や床上・床下浸水、大規模な土砂災害などが発生した。

福井県生協連は、毎年災害ボランティアセンター設置運営訓練に参加しています。今回の訓練では、勝山市とその周辺の市町に現地災害ボランティアセンターが設置され、県庁内に設置された県災害ボランティア本部に配属された生協連は、携帯電話を使って現地センターから支援物資要請の情報を集約し、物資手配を依頼、結果を現地センターに報告するという物資調達を担当しました。携帯電話を使って現地と情報のやりとりを行うなど、臨場感のある訓練となりました。



福井県協同組合連絡会 視察研修報告

福井県協同組合連絡会の視察研修は、5つの協同組合(福井県JA中央会、福井県経済連、福井県漁連、福井県森連、福井県生協連)が毎年持ち回りで企画実施しています。今年は去る10月29日、福井県森林組合連合会の運営により開催されました。

視察先は、福井の森林を守り、森林資源の有効活用をめざしている坂井森林組合と建築資材・産業資材メーカーであるフクビ化学が協同し、間伐材などを活用する「ふくいWOODバイオマスセンター」です。この事業は福井県の林産資源を有効活用する範囲を従来よりさらに広げようとする試みで、国・福井県・坂井市の補助事業でもあります。

この事業の成功は、消費者が燃料としての木質ペレットやエコ建材を選択するかどうかにかかっているように思いました。



会員生協の活動報告 & 予定案内

福井県
労済生協

全労済福井県本部
第5回代表者会議

2014年7月30日(水)、ユニオンプラザ福井において「全労済福井県本部 第5回代表者会議」が開催され、すべての議案が承認されました。

I. 福井県本部統合事業 2013年度基本計画
《福井県本部ステップⅢ》2013年度 事業報告および
決算報告について

2013年度末契約状況・給付状況について
契約件数は312,392件(前年比98.46%)となり、契約
口数は27,064,858口(前年比98.42%)となりました。
給付件数は14,153件(前年比95.44%)、1,821,798,362
(前年比77.75%)の共済金を支払いました。

II. 福井県本部統合事業 2014年度活動計画 2014年度事
業計画および予算について
事業推進活動の基本的視点として、4つの視点での取組
みをすすめます。

- ① 団体生命共済実施団体への新たな団体生命共済の提案と取組み
- ② 全協力団体への訪問活動の強化による関係強化の取組み
- ③ 対面推進チャネルにおいて可能な限りの商品提案の取組み
- ④ 共済代理店チャネルにおいて推進強化の取組み



福井県
医療生協

「安心できる在宅療養を」

つるが生協診療所師長 田上 和江

「地域包括ケア」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。2025年には高齢者人口が3500万人に達すると予測されています。そんな超高齢化社会に向けて政府が社会保障の改革の旗印にしている言葉です。「入院から在宅へ」「医療から介護へ」「公的介護から民間企業・ボランティアへ」という流れが加速的に進んでいます。ひと昔?前なら入院していたような方もお家で療養しています。

病院からの退院が決まったら、医療と介護の関係者がそろって会議を開いて、お家でどのように療養するかを検討します。往診や訪問看護、ヘルパー、介護用品が必要か、などを相談するのです。退院後の自宅での療養は不安も大きいと思います。また、在宅医療では病院のように高度な医療は出来ません。家族の介護の力も必要になってきます。だれもが安心して、お家で医療や介護サービスが受けられるしくみを作らないといけません。皆さんはどうお考えですか。

管浜生協

大雨の中でも…

8/15すかまフェスタ

太鼓も花火も生協の店も



8/15(金)「生協まつり」も顔負けの雨の中、すかまフェスタは開催されました。当日は大雨にもかかわらず多くの区民や帰省客で賑わいました。



あやぶまれた花火も大輪の花を咲かせ、参加された人達も「おー」と感動の声。又、太鼓の音も雨の夜空に大きく鳴り響き、生協の出店も大繁盛でした。



県民せいきょう Hearts

ハーツタウンわかさ
11月7日(金) グランドオープン

〒917-0241 小浜市遠敷9丁目501番地

県民せいきょう8号店ハーツわかさが、小浜市遠敷(国道27号線沿い)元若狭松風跡地にオープンしました。たんぼぼ便(宅配センター)、介護施設(きらめき)、子育て支援施設、組合員集会室の他、テナントとして「しまむらサンプル」や「ミスタードーナツ」などが一体となった事業と活動の複合的な施設です。移動店舗「ハーツ便」や買物代行「おつかいさん」「買物バス」なども展開し、事業ネットワークを通じて、若狭エリアの組合員・地域の皆さんのくらしにお役立ちしてまいります。

お近くにお越しの際は、ぜひ一度お立ち寄りください。

